

防除所レポート [本年のナシ黒星病菌の子のう胞子の飛散状況]

ナシ黒星病の第一次伝染源の種類には、落葉上の子のう胞子と、芽(果そう)基部上の分生子がある。

例年、子のう胞子は4～5月に降雨がある度に飛散する。本年は、3月の平均気温が平年より高く、例年より早い3月19日から子のう胞子の飛散を確認し、4月中旬に飛散量が増加した(図)。

今後、幼果や葉で発生する可能性があるため、圃場をよく観察し、黒星病の早期発見と適期防除に努める。

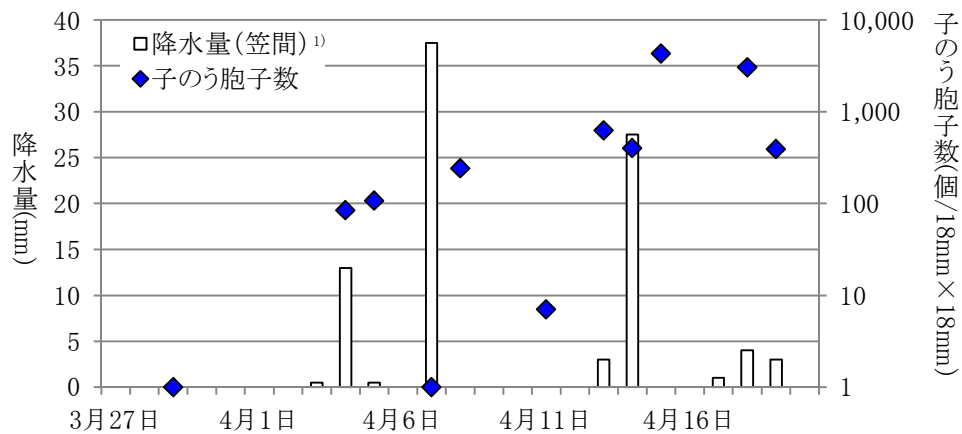


図 本年のナシ黒星病菌の子のう胞子の飛散数と降水量 (笠間市, 園芸研究所)

1) 子のう胞子トラップに捕捉された胞子数(調査は降雨日の当日～翌々日に実施)